

猫の多頭飼育者を対象とした学習会について

長野県動物愛護センター

○浦野絵梨 橋井真実 小平満 松澤淑美

1 はじめに

近年、多頭飼育問題は社会的に注目が集まっており、報道やSNS等で取り上げられることも増えている。令和3年3月には、環境省自然観光局総務課動物愛護管理室により「人、動物、地域に向き合う 多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」(以下、「ガイドライン」という。)が発行された。ガイドラインによると、多頭飼育問題への対応は、地方自治体の動物愛護管理部署だけではなく、社会福祉部局、生活衛生部局、動物愛護ボランティア等、行政・民間問わず多機関と連携しながら改善策を講じていく必要があると明記されている。長野県では、保健福祉事務所が「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「動物の愛護及び管理に関する条例」等に基づき飼い主等に対する指導、助言を行っており、長野県動物愛護センター(以下、「ハローアニマル」という。)では適正飼養の普及啓発を行っている。

今回、保健福祉事務所及び社会福祉協議会(以下、「社協」という。)から依頼を受け、福祉的支援を要する多頭飼育者に対する猫の学習会を実施し、多機関連携の一翼を担ったので報告する。

2 経過

T市社協よりNPO法人I(以下、「ボランティア」という。)を通じて保健福祉事務所に猫の多頭飼育について3事例の相談があった。併せて、飼育者を集めて猫の正しい飼い方を教えてほしいとの要望があり、保健福祉事務所からハローアニマルに学習会の開催依頼があった。

対象の3事例は、いずれも猫を室内で十数頭飼育していた。飼育環境は、比較的きれいな状態からごみ屋敷状態まであったが、猫がトイレ以外の場所で排泄し、糞尿が放置されている状態であることは共通していた。飼育者は認知機能に差はあるが、猫に愛情を持って接していた。

飼育者に対する支援については、生活支援をT市社協、T市福祉課、T市生活環境課が、猫の不妊・去勢手術、ケージの貸与、譲渡先探しをボランティアが、猫の飼い方支援を保健福祉事務所が行った。

猫の学習会を行うにあたり、長野県社協、T市社協、T市生活環境課、保健福祉事務所、ハローアニマルが集まり打合せ会議を行った。会議では社協から3事例の詳細と今後の方向性についての説明があり、学習会の目的やねらい、イメージ、具体的な内容、配慮したい事等が話し合われた。その際、社協からは学習会に対して以下の要望が挙がった。

- ・多頭飼育されている猫がどのように感じているか、今の飼い方がどうなのか考える場にしてほしい
- ・「楽しかった」「来てよかった」がキーワード
- ・知的な課題もあるので、分かりやすく
- ・「参加型」の学習会
- ・「支援」ではなく「応援」という気持ちで接する

3 学習会の実施

(1) 概要

親しみやすく分かりやすい学習会とするため、学習会の名称を「ネコのきもちセミナー」とし、次第は以下のとおりとした。

- ① オープニング（名札づくり）（10 分）
- ② ネコについて学ぼう（30 分）
- ③ ネコのモデルルームの拝見（20 分）
- ④ 工作の時間（キャットタワー、ネコのおもちゃ、ネコトイレ）（30 分）
- ⑤ ゴミの分別について学ぼう（10 分）
- ⑥ アンケート（10 分）

ハローアニマルでは適正飼養の普及啓発を目的として月に 1 回、一般飼い主向けに猫の飼い方教室を実施している。内容は大人向けで、猫の生態・習性や健康管理等について 60 分の講義形式で行っている。今回の学習会は、通常の猫の飼い方教室とは異なり、「猫の気持ち」を飼育者に考えてもらえるような内容とした。（表 1）

(2) 参加者

飼育者とその家族 4 名（大人 3 名、子ども 1 名）、T 市社協 1 名、長野県社協 1 名、T 市生活環境課 2 名、保健福祉事務所 2 名、ボランティア 2 名、ハローアニマル 7 名であった。

(3) 会場

ハローアニマルで通常は幼児の遊び場として開放しているどうぶつ探Q館を活用した。（図 1）楽しい雰囲気となるようにイスの配置を工夫し、次第をポスターサイズで見やすく掲示した。（図 2）

表 1. 猫の飼い方教室とネコのきもちセミナーの違い

	猫の飼い方教室	ネコのきもちセミナー
対象者	一般飼い主	福祉的支援対象者
開催 頻度	毎月 1 回	随時
時間	講義 60 分	110 分（講義 30 分）
内容	猫の生態・習性 猫の健康管理 猫の快適な生活環境 猫に関する法律 災害への備え	猫はどのように感じているか 工作の時間 猫のモデルルーム拝見 ゴミの分別
特徴	大人向けの専門的な内容 講義形式	子どもにも分かりやすい内容 参加型



図 1. 会場（どうぶつ探Q館）



図 2. 「ネコのきもちセミナー」次第

(4) 内容

① オープニング (名札づくり)

初めに、参加者全員がわかりやすく可愛らしい名札を手作りすることで、緊張した雰囲気を緩和し、飼育者と関係者が話しやすい環境を設定した。

② ネコについて学ぼう

講義形式でパワーポイントを使って行った。時間は通常の猫の飼い方教室の半分とした。また、内容が分かりやすいように、パワーポイントのスライドの文字数をなるべく減らし、絵や写真を多く使用した。(図3)

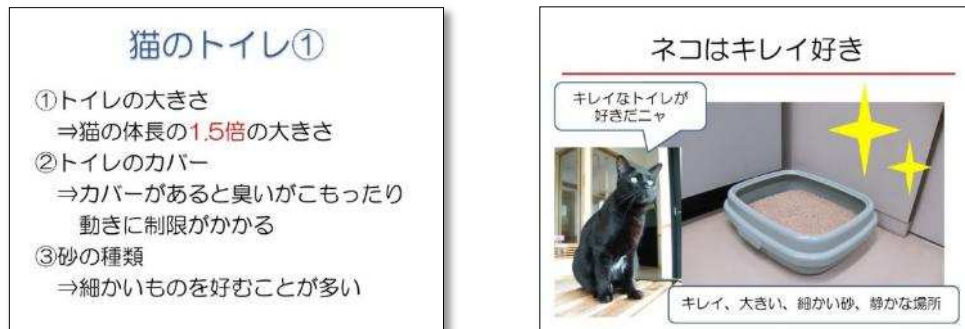


図3. 通常の猫の飼い方教室のスライド(左)とネコのきもちセミナーのスライド(右)

また、生活環境を清潔に保つためには猫のトイレが重要と考え、猫砂の説明に10分間時間を割いた。実際に数種類の猫砂を用意し、それぞれのメリットデメリットについて話した。(図4) 参加者から使い勝手等について活発な発言があった。

③ ネコのモデルルーム拝見

アクリル板のパーティションで仕切った部屋に、キャットタワー、トイレ、隠れ家、爪とぎを設置し、猫のモデルルームを再現した。(図5) 実際に幼猫を展示し、モデルルームで活発な幼猫がどのように遊ぶか等、行動を観察した。



図4. 実際の猫砂を用いた説明



図5. 猫のモデルルームと行動観察

④ 工作の時間

社協からの依頼である「参加型」の学習会を意識して企画した。キャットタワー、猫のおもちゃ、猫トイレの中から作りたいものを自分で選び、ダンボール、新聞紙等を用いて参加者全員が作成した。飼育者からの要望で、当初予定にはなかった爪とぎや猫の隠れ家も作成した。

⑤ ゴミの分別について学ぼう

T市生活環境課が担当した。猫の飼育上、猫砂の分別に苦慮することがあるが、T市ではどの種類の猫砂でも燃えるゴミに出してよいと説明があった。

⑥ アンケート

最後に保健福祉事務所とハローアニマルを除く参加者9名（飼育者とその家族3名、T市社協1名、長野県社協1名、T市生活環境課2名、ボランティア2名）に対しアンケートを行った。

4 結果

アンケート結果より、参加者は学習会を概ね好意的に受け止めていた。（表2）講義形式の時間を短くし、パワーポイントのスライドに絵や写真を多く使用したことで、「内容について」の質問に対しては、9名中8名が「よくわかった」と回答した。また、会場の配置や名札づくりで緊張した雰囲気を緩和し、飼育者と関係者が話しやすい環境を設定することを心掛けた結果、「参加してみて」の質問に対しては、9名中7名が「とてもよかった」と回答し、「また参加したいか」の質問に対しては、9名中9名が「参加したい」と回答した。

後日、1事例の生活応援会議にて、飼育者本人より学習会は参考になったとの発言があった。

表2. アンケート結果（参加者9名）

内容について	よくわかった	わかった	ふつう	むずかしかった
	8	1	0	0

成果について	とてもためになった	ためになった	わからない	ためにならなかった
	6	3	0	0

参加してみて	とてもよかった	よかった	どちらでもない	つまらなかった
	7	2	0	0

また参加したいか	参加したい	どちらでもない	参加したくない
	9	0	0

5 まとめ

ハローアニマルでは適正飼養の普及啓発を目的に、一般飼い主向けに猫の飼い方教室を毎月1回実施している。今回はそのノウハウを生かし、福祉的支援を要する多頭飼育者に対して、通常の猫の飼い方教室とは異なる参加型、行動観察等の工夫をこらした猫の学習会を実施した。ハローアニマルは多様性に応じた柔軟な対応が可能であり、当施設を有効に活用した新しい取り組みの幅を広げることができた。長野県社協、T市社協、T市生活環境課、ボランティア、保健所と様々な立場の人が連携し、それぞれの専門性を生かして飼育者を「応援」という姿勢で接したことにより、飼育者が参加しやすく、かつ楽しく学べる雰囲気となり、参加者の満足度も高かった。今後、様々な機関と連携・協働し、多頭飼育問題の予防と解決を目指す体制の構築に努めたい。